

# 令和6年度 読み聞かせタイム実践記録

触察できる「さし絵」の活用

# 小学部での読書活動

- 昼休みの後、「昼の活動」の時間を設定
- 週1回を「読書の時間」として  
読み聞かせ＋各自の読書タイムとしている。



「絵本」の中の「さし絵」の扱いになるものが欲しいと考えて、準備している。

# 思い

「さし絵」を触察できるものにして“みる”と同じような“実体験”とともに読み聞かせをしたい。

## 意識してねらいとしていること

- さし絵のもつ意味を生かすことができる。  
例) 場面の大きな転換など
- イメージをもって聞くことができる。
- インパクトを残し、思い出に残すことができる。
- 話の流れや内容の意味の理解につなげる。
- 触りながら聞くと楽しい。

# 「うちのピーマン」

作：川之上英子・健

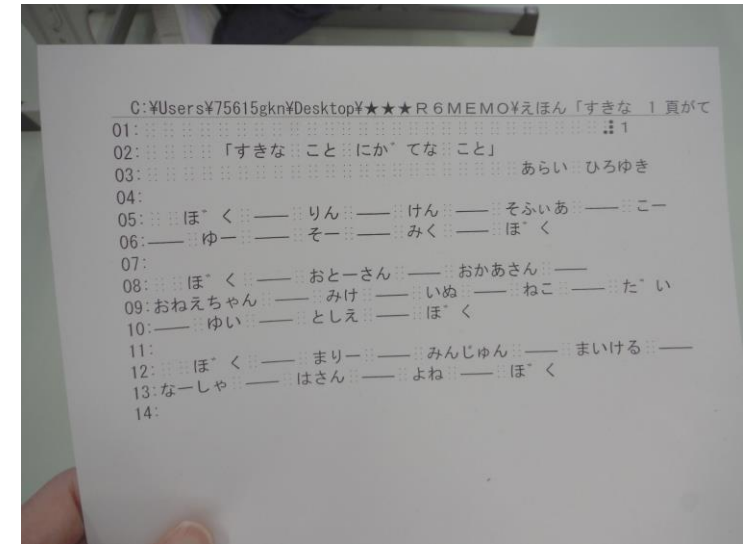
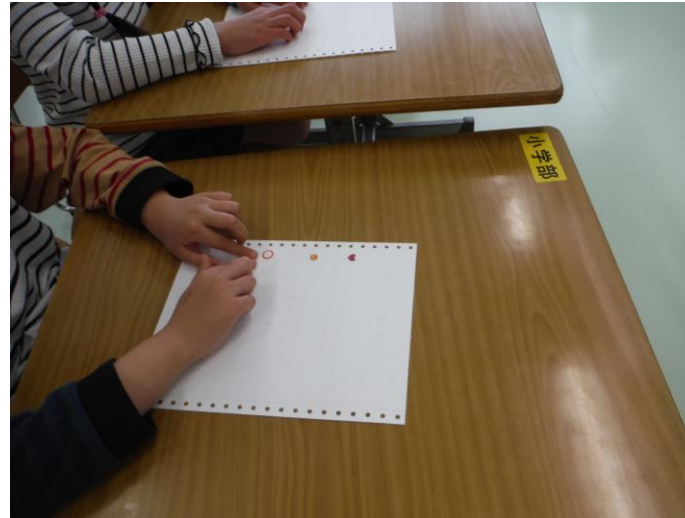
絵：柴田 ケイコ 出版社：アリス館



主人公の「ピーマン」のビジュアルを知るために、本物のピーマンに手足や顔のパーツ（フェルトや紙のシール）を各自で貼り付けるところからはじめました。本物のピーマンの手触りや香りを感じ、それに顔や手足があるコミカルな様子を感じ、読み聞かせの最中は、自分のピーマンを自由に動かして楽しみました。

# 「好きなこと にがてなこと」

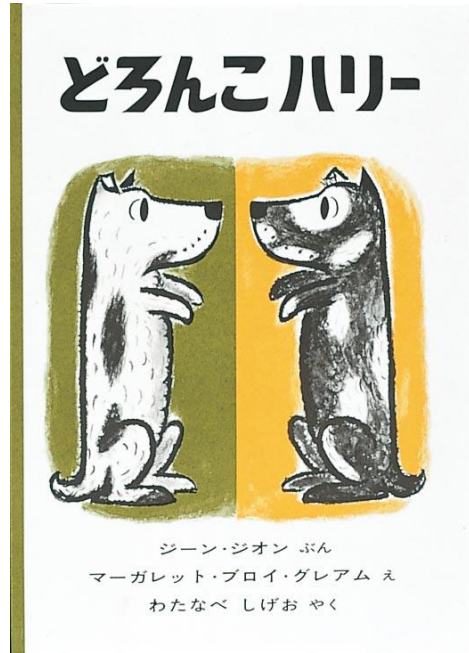
作：新井 洋行 絵：嶽 まいこ 出版社：くもん出版



「好き」と「にがて」でみんながつながっていくお話。挿絵を触れるようにするのではなく、点字で今登場している人物を確認しながら、つながっていく様子を味わってもらうことにしました。

# 「どろんこハリー」

作：ジーン・ジオン 絵：マーガレット・ブロイ・グレアム 訳：わたなべ しげお 出版社：福音館書店



犬のぬいぐるみをよく触ってから、登場人物の「ハリー」を描いて立体コピーした絵を触察しました。お話の途中で、ハリーがどろやすすや石炭で次第に真っ黒になっていく場面ごとに、「ねんど」を絵に貼り付け、ハリーの見かけがどう変わったのか自分で表現して挿絵を味わいました。もちろん、シャワーで洗い流したところのタイミングでは、ねんどを全部剥がして元通り！

# 「ぼくを 探しに」

作・絵：シエル・シルヴァスタイン

訳：倉橋 由美子

出版社：講談社



「ぼく」がであう「かけら」を、場面ごとに組み合わせられるようにしました。厚紙で作った「ぼく」は裏にマグネットシートを貼り、ホワイトボード上で転がしたり動かしたりしやすくしました。読み聞かせの場面に合わせて「ぼく」を動かしながら様々な「かけら」をはめ、挿絵の雰囲気味わいました。

# 「パンどろぼう」

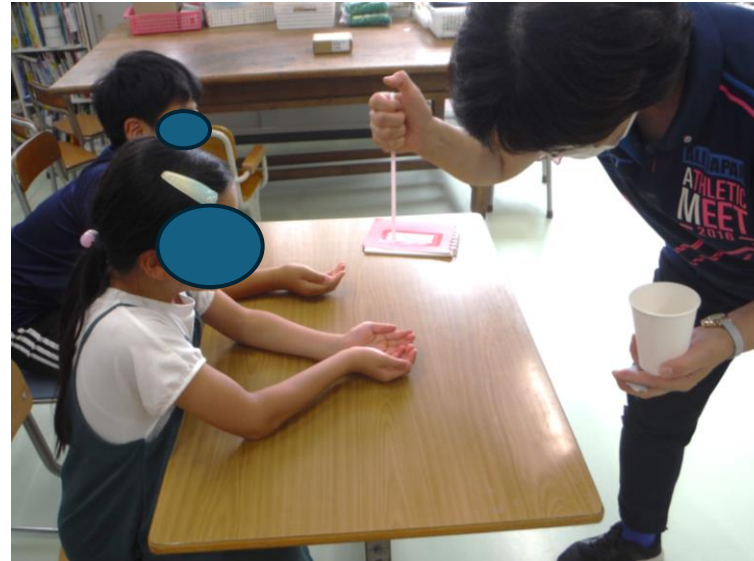
作：柴田ケイコ 出版社：KADOKAWA



主人公の「パンどろぼう」の正体は、実は「パンのかぶりものをつけたねずみ」だったと判明する場面のインパクトを、自分で「触察挿絵」を操作しながら楽しみました。「パンのかぶりもの」とねずみとの素材を変えて作り、出てきたあとは「ねずみ」になっている感覚を味わえるようにしました。

# 「しずくのぼうけん」

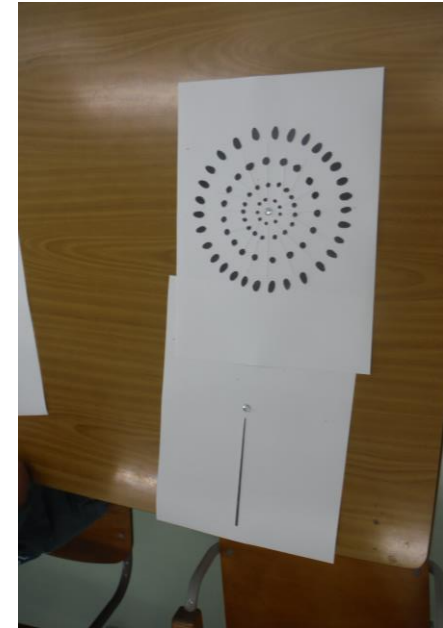
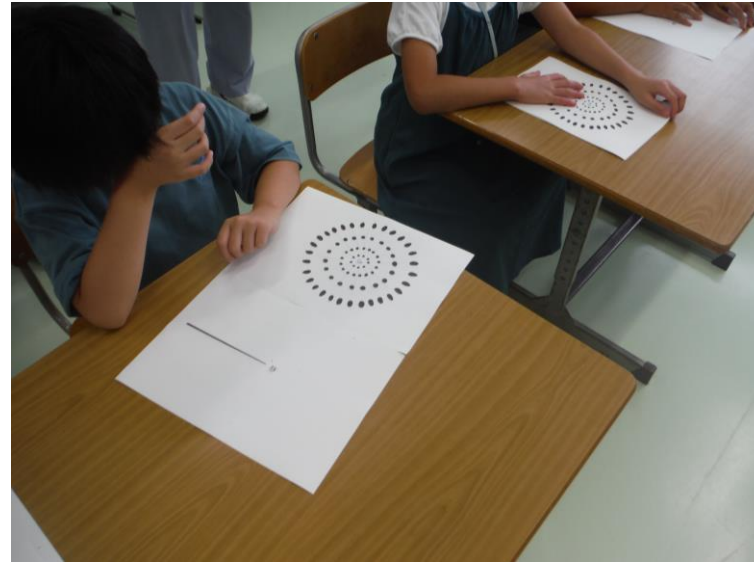
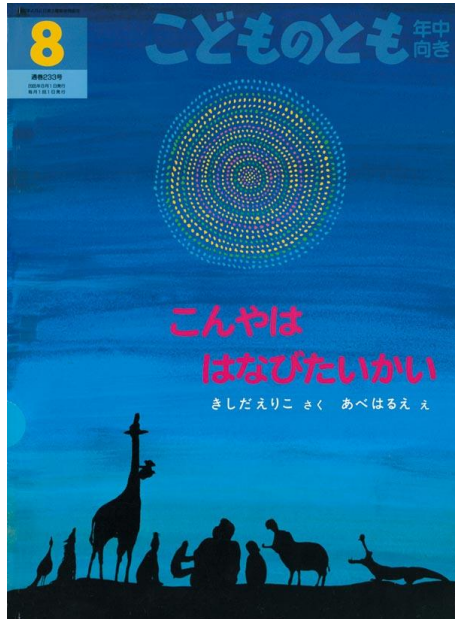
作：マリア・テルリコフスカ 絵：ボフダン・ブテンコ 訳：うちだりさこ 出版社 福音館書店



「しずく」というものが、水がしたたり落ちるときの水滴であり、挿絵にはどんな形で描かれているのかを味わうために、はじめに手のひらにポタリと水滴を垂らしてから、絵に描かれた時の「しずくの形」を触りました。これを動かしながら聞き、お話の中でしずくが変化していく様子を想像しました。

# 「こんやは はなびたいかい」

作：きしだえりこ 絵：あべはるえ 出版社：福音館書店



打ち上がっていく途中の軌跡と広がった場面の花火の様子を知ってほしく、描いて立体コピーしました。中心の部分はデコシールを貼り、放射状に裏面からルレットで盛り上がりを描きました。読み聞かせの途中、花火が打ち上がる場面では、読み聞かせの声と効果音の花火の音源を交互に流して演出しました。その音に合わせて絵を触りながら味わいました。

# 「ばばばあちゃんのアイス・パーティー」

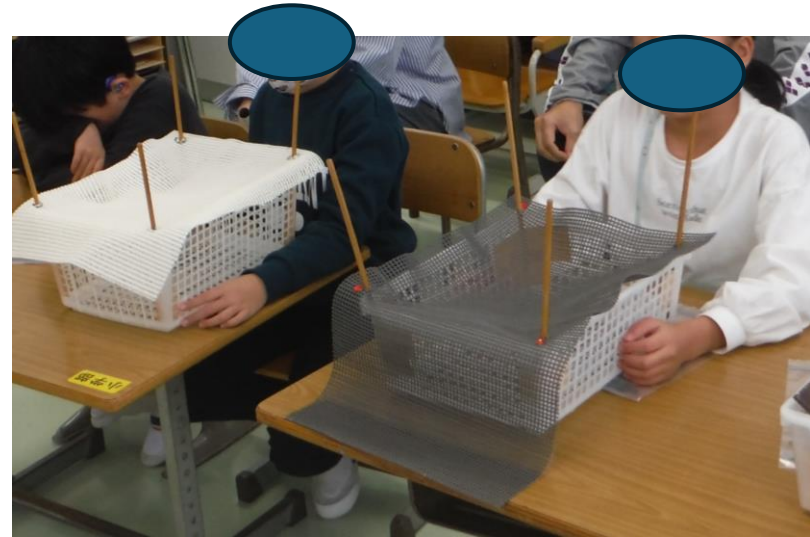
文・絵：さとうわきこ 協力：佐々木志乃 出版社：福音館書店



ばばばあちゃんのビジュアルはぜひ知ってほしくて、立体コピーで触りました。  
（この髪型にした教員の頭も触ってイメージもつかめました…！）製氷皿に自分で水を入れたり、氷になったものを触ったりする体験をしながら、お話を進めました。暑い季節に、冷たい氷を触りながらアイスパーティーのお話を聞いて楽しみました。

# 「のり」 かがくのとも 2023年1月号

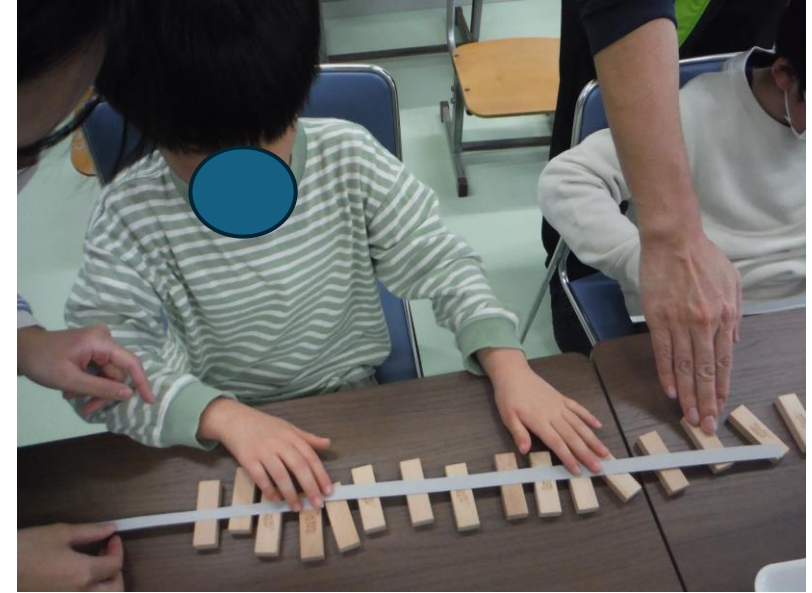
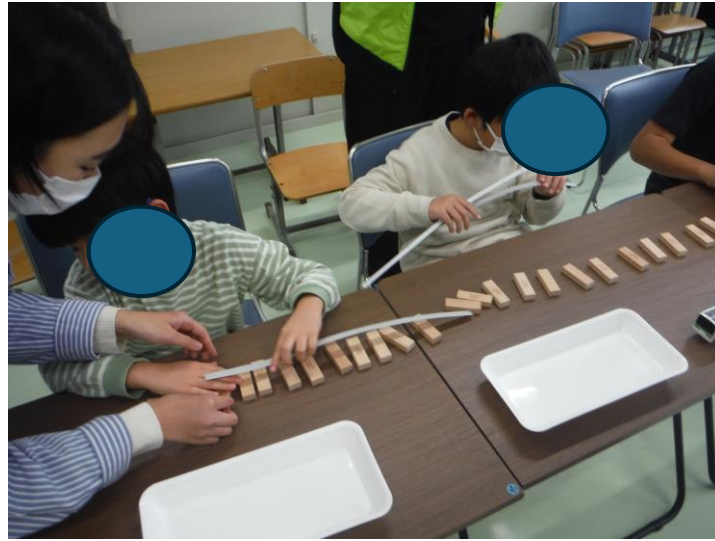
作：佐竹絵里子 出版社：福音館書店



本物の「のり」を1枚ずつ渡し、よく触察したり匂いをかいだりしてから読み始めました。養殖場の様子の挿絵に合わせて模型を触り、イメージを膨らませました。校外学習で行った松島の海のことなども思い出しながら聞きました。

# 「でんしゃは うたう」

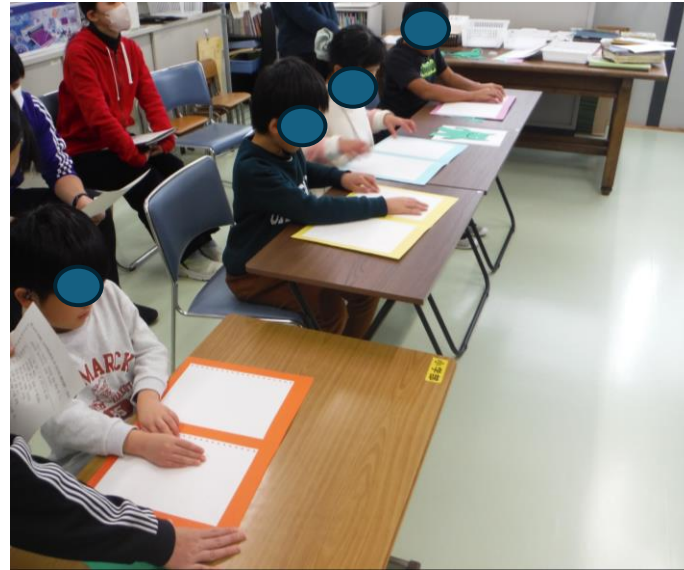
作：三宮麻由子 絵：みねお みつ 出版社：福音館書店



電車の音がリズムカルにつながる作品の楽しさを損なわないようにしたかったので、電車の枕木とレールを組み立てて、電車が走っている挿絵の様子を知る時間は読み始める前に取りました。読み聞かせの最中は、触察はせずに、自分が電車の座席に座っているイメージで聞きました。

# 「カラーモンスター きもちのきゅうきゅうばこ」

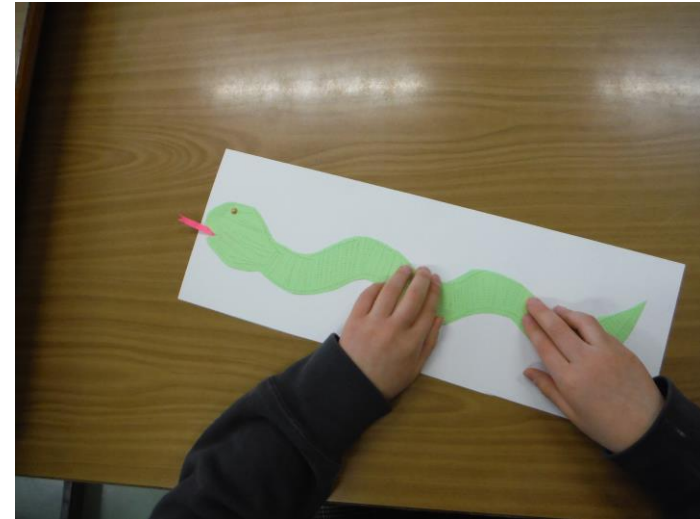
作：アナ・レナス 訳：おおともたけし 出版社：永岡書店



「きもちのせんもんか」である「モンスター」のビジュアルを、作品同様、切り絵で表現しました。「きもちをおちつかせるためのやりかた」は、挿絵と同じように「リスト」の形で点字で書いたものを各自に渡しました。

# 「へびのニョロリンさん」

作：富安陽子 絵：長谷川義史 出版社：童心社



長ーいへびのぬいぐるみと、ゴム製のへびの模型、ざらざらとした触感を表現した貼り絵を触って、へびのイメージをもってから読みました。「とぐろ」を巻いたへびを「ざぶとん」と勘違いする場面では、実際にぬいぐるみでとぐろを巻いてみて、触って確かめました。貼り絵は一人1枚準備して、自由に触りながら聞きました。